平成28年熊本地震の被災地に熊本市長会を通して支援金

被災地の１日も早い復興を祈って募金活動

本市では、熊本地震によって被災された方々の支援を行うため市役所総合窓口・公共施設などに支援金募金箱を設置するとともに、主催イベントなどで募金活動を行いました。また、市内の小中学校では、児童生徒が募金箱を作り協力を呼び掛け、５月31日、風間市長に児童生徒の代表から集めた募金が寄託されました。

５月末までに設置した募金箱や、募金活動などで集まった支援金は、白石市分920,000円、白石市立小中学校児童生徒一同分324,000円。６月７日、風間市長が熊本県市長会髙嵜哲哉（たかさきてつや）会長（玉名市長）に手渡しました。今後は各種イベントなどで義援金募金箱を設置。支援活動を継続します。皆さんの温かいご支援をお願いします。

1_風間市長に支援金を手渡す児童生徒の代表　2_髙嵜熊本県市長会長に支援金を手渡す風間市長　3･4_観光大使の白石戦國武将隊「奥州片倉組」が「宮城ふるさとプラザ」で募金活動。白石市アンバサダーの森川智之（もりかわとしゆき）さん、絵巻作家の正子公也（まさこきみや）さんも参加され、572,787円が集まり市に寄託　5_風間市長に、日赤への義援金37,000円を手渡す旧車会の代表　6_鈴木恒秋（すずきつねあき）白石市共同募金委員会長に、宮城県共同募金会への義援金315,731円を手渡すジュニア・リーダーキャロルの代表。こけしコンクール会場で募金活動！

きれいな響きはきれいな町から

白石高校吹奏楽部が清掃奉仕活動

６月４日、白石高等学校吹奏楽部保護者会の主催で清掃奉仕活動が実施されました。この活動には、部員42人をはじめ顧問の先生や保護者約20人が参加し、今年で11年目。旧白石女子高等学校時代に、いつもお世話になっている地域の方々への感謝と恩返しの気持ちから活動が始まりました。この日も益岡公園、武家屋敷方面や市役所、白石駅方面など４つの班に分かれてごみ拾いを実施。参加した部員は「いつまでも地域の人に応援してもらえる部活動でありたいです。今後もこの活動を続けていきます」とさわやかな笑顔で話してくれました。

▲館堀に落ちたごみ袋を拾い上げる部員

かっこいいカブトムシになってね

市内保育園などにカブトムシの幼虫を寄贈

６月７日、社会福祉法人白石陽光園「生活介護とも」の職員と利用者３人が北保育園を訪れ、カブトムシの幼虫を寄贈しました。この催しは平成18年から行われており、今回で11回目。今年は市内の保育園や幼稚園、小学校に約150匹のカブトムシの幼虫をプレゼントしました。

この日は、北保育園の４～５歳児18人がお出迎え。施設職員から幼虫の飼育方法を教えてもらった後、軍手をして幼虫に触れてみました。園児たちは「ぷにぷにしてやわらかかった」「ちょっと怖かったけどかわいかった」と話してくれました。

▲カブトムシの幼虫を手に乗せ、歓声をあげる園児たち

ふるさとの自慢　うた声とともに

ＮＨＫラジオの公開収録が開催

５月20日、ＮＨＫのラジオ番組「ふるさと自慢うた自慢」の公開収録がホワイトキューブコンサートホールで行われました。この収録には、はがきで応募のあった約450人の観衆の中で、市民から選ばれた６人が、ステージに上がり、ふるさと白石をＰＲ。ふるさと自慢大賞に輝いた消防団員佐藤耕平（さとうこうへい）さんは、梯子（はしご）乗りの技で会場を沸かせ「ぜひ白石に来てください」と話していました。ほかの出演者は、温麺の名前の由来や団七踊りの実演、白石に伝わる昔話など、白石の自慢を披露。その後は、得意の歌を会場に響かせていました。

▲ゆずの「栄光の架橋」を熱唱する佐藤さん

交流を深め花のまちづくり

上郡山地区で花の植栽

５月22日、上郡山地区で、国道113号沿いの花壇の植栽活動が開催されました。今回が２年目のこの活動は、まちづくり交付金事業を活用したもので、地区住民90人以上が参加。子どもたちは、おじいさんやおばあさんと一緒に、ペチュニアやマリーゴールドの花の苗約700株を植えました。昨年より参加者が増えて、いっそう地域での交流を深めることができた様子。作業を終えた子どもは「家では土いじりをしないので楽しかったです。通る人たちがきれいだなと思ってもらえたらうれしいです」と笑顔で話してくれました。

▲花壇にマリーゴールドを植える参加者たち

白石の伝統音楽が新しく生まれ変わる!?

大町神楽継承会 × 小野越郎 ×DJ クリック　（仮題）「東北りみっくす」プロジェクト

５月31日、市内在住の津軽三味線奏者小野越郎（おのえつろう）さんとフランス人バルカンビート系DJクリックさん、ロンドン在住の日本文化プロデューサー柳沢晶子（やなぎさわあきこ）さんが、（仮題）「東北りみっくす」プロジェクトの一環で、榊流大町神楽（さかきかぐら）継承会を取材するため、大鷹沢第９区公民館を訪れました。このプロジェクトは、2013年、オーストラリアのアデレードで毎年開催されている有名なワールドミュージックフェスティバルで、柳沢プロデューサーが２人を引き合わせたのがきっかけ。津軽三味線・神楽など東北の民俗音楽に感激したクリックさんが、小野さんたちと東北各地を訪れ、その土地の民俗音楽をリミックスすることでそれぞれの魅力を引き出し、新しい楽曲を創り出すというもの。クリックさんたちはこの日、同継承会への取材と、披露された「種蒔の舞」や「大刀の舞」などの録音を通して、130年以上引き継がれてきた神楽のルーツやその魅力を感じていました。

大槻恒夫（おおつきつねお）同継承会会長は「先輩たちから引き継いできたこの神楽がどう生まれ変わるのか楽しみです」と話してくれました。小野さんは「クリックさんと一緒に東北の芸能・音楽の魅力をどう引き出していくかは私にとっても大きなチャレンジ。とてもワクワクしています」と、この活動への意気込みを語ってくれました。クリックさんたちは、５月下旬から６月上旬にかけて東北各地の伝統音楽を取材・録音。完成した楽曲は、欧州などで行われる音楽フェスティバルで披露される予定です。

DJ クリックさんに東北の民俗音楽の魅力を聞いた

小野さんの津軽三味線を聞いた時、とても感動しました。津軽三味線をはじめ、東北の民俗音楽には、その地方ならではの良さがあると思います。大町神楽継承会の皆さんが一生懸命引き継いできたからこそ生まれている良さを大事にしながら、私の音楽と融合させ、新しい音楽を創り出していきたい…。そして、東北の民俗音楽の魅力を、世界中の人たちに知ってもらいたいと思います。

▲ DJ クリックさん

▲録音した後、柳沢プロデューサー（後左１）、小野さん（後左２）、DJ クリックさん（後左３）と記念撮影した榊流大町神楽継承会の皆さん